

2020年度方針

2020年4月

公益財団法人 全日本ボウリング協会

会長 北川 薫

2016年度より「アスリートボウラーを頂点としたスポーツボウリングの普及強化」を柱に協会運営を進める中、2019年度はジュニア選手の台頭と、シニア選手の活躍が光り、アスリート意識の全世代における高まりが結実した年となりました。一方で、自然災害や衛生面から競技活動が大きく制約され、スポーツ界全体の機運に大きく響いています。スポーツが人々に大きな力を与える存在であり続けるため、この危機を乗り越える新たな道を切り開く必要があります。

ボウリング界には東京オリンピック・パラリンピックの先を見据えた行動が求められています。JBCは2020年度も、アスリートボウラーの活躍を支え、その姿が人々の希望となるよう発信するとともに、あらゆる人々が個性や志向に応じてボウリングとの関わりを持てるよう機会を創出してゆきます。スポーツ界、ボウリング界はもちろん、他業界とも幅広く連携し、国内競技統括団体として日本ボウリング界が抱える課題の解決に邁進します。

1. アスリートボウラーを頂点としたスポーツボウリングの普及強化

- (1) 全日本ナショナルチーム、全日本ユースナショナルチームの国際的競技力の向上と国際大会における成績目標必達
- (2) 次世代トップアスリートとなり得る選手の発掘育成
- (3) ボウリング指導者資格とメソッドの全国的な浸透を図る

2. ボウリング界内外と連携強化し「新たなボウリング像」を構築する

- (1) 「見るスポーツ」としてのボウリング像の開発
- (2) ボウリング場、業界との連携による「するスポーツ」新形態の開発
- (3) ボウリング界が抱える課題の抽出と対策実施
- (4) 新形式トーナメントによるボウラーの競技参加および選手間交流の促進

3. 多様性を受け入れ、あらゆる人々にボウリングとの接点を提供する

- (1) 幼児・児童を対象としたボウリングとの出会いの創出
- (2) 高校総体(インターハイ)正式種目採用を柱としたジュニア層の競技環境充実
- (3) 大学におけるボウリングの多角的展開
- (4) 成人スポーツとしてのボウリング普及促進
- (5) シニアボウリングアスリート像の創出
- (6) パラスポーツとしてのボウリング普及促進
- (7) 多様性の受け入れ

この方針の実施にあたり、内閣府、総務省、文部科学省、スポーツ庁をはじめとする各省庁、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、独立行政法人日本スポーツ振興センター、一般財団法人地域活性化センター、ボウリング業界、特別協力各社との連携を密にし、役員はもとより会員の皆さんと共に方針の達成に邁進します。